

# SAKURA

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



上羽 剛史



中山 美紀



新田 壮人

## バロック —いびつな真珠—

== INDEX ==

### Pick Up Artist

横浜音祭り 2022 共催

気軽にバロック!!~トークと演奏を楽しむコンサート~出演

### 上羽 剛史、中山 美紀、新田 壮人

### さくらプラザ 自主事業レポート

さくらプラザ 特待生 第16回 特待生ミーティング

さくらプラザ 動画公開サポート

### 連載

子ども × 文化芸術 × 私たちの暮らす街

WA! 育つ! 育てる! / 小田 直弥

戸塚でたのしむミュージック♪ / 山添 薫

誰も真似てはならぬ!? 鈴木啓資の

㊟さくらプラザコンサート企画案 / 鈴木 啓資

人は皆 背中で語る… 見返戸塚人



「バロック音楽」を知るためのコンサートが10月に開催されます。出演は国内外の第一線で活躍される若手演奏者の中山美紀さん(ソプラノ)、新田壮人さん(カウンターテナー)、上羽剛史さん(チェンバロ)。バロック音楽について詳しく教えていただきながら、魅力についてもたっぷりとお話いただきました。

—「バロック時代」とは、いつ頃のことを言うのですか？

**中山 美紀(以下、中山)**—16世紀の終わりから18世紀前半くらいだと思ってください。日本では江戸時代ですね。

**新田 壮人(以下、新田)**—作曲家で言うと、「カッチーニ」や「モンテヴェルディ」がいわゆる「バロック音楽」の始まりになるのかと。モンテヴェルディの「マドリガーレ」という作品集が第1巻から第9巻までありますが、彼が20歳頃だった1590年頃から晩年の1640年頃までの間にその曲集を作っていて、バロック時代の流れを作風で追えるようになっていきます。バロック時代は「前期」「中期」「後期」のように分けられるのですが、マドリガーレ集の第1巻ではバロックの前のルネサンス時代に近い無伴奏の音楽が、その後、第5巻以降に楽器伴奏、第7巻くらいからは独奏や多重唱に通奏低音が付き、第8・9巻ではのちのオペラに繋がるような作品に変わっていきます。そこから派生した音楽がヘンデルやヴィヴァルディなどのバロック後期の作品に繋がっていく……。モンテヴェルディを聴くとバロック時代の音楽が追えるので、お勧めです。

—この時代はさまざまな国や地方などで音楽が栄えたと思いますが、すべてバロック音楽と呼んでいいのでしょうか？

**中山**—そうですね。ドイツ・バロック、フランス・バロック、いろいろありますが、今回は特にイタリア・バロックを中心に演奏しようと思っています。「バロック音楽」と聞くとJ.S.バッハを想像する方が多いと思うので、今回の公演でもJ.S.バッハの有名なカンタータや、平均律第1巻のハ長調プレリュードなども聴いていただけたらと思います。

**上羽 剛史(以下、上羽)**—「J.S.バッハ」は1685年～1750年に生きた人なので「後期」の作曲家です。「G線上のアリア」「主よ人の望みの喜びよ」「トッカータとフーガ」など、クラシックを知らない人でも1度は耳にしたことのある作品が多くあります。他にも、今回の公演でも演奏予定の「ヘンデル」「スカルラッチ」などの「バロック時代」を代表する作曲家が後期にはいます。バロック時代の終焉はバッハの没年と同じと言われてるんですよ。先ほどのモンテヴェルディは前期でしたが、中期には一般的に知られた人が少ないですが、例えば「コレリ」という作曲家がいました。

—同時期の美術や建築では「バロック様式」などがありますが、「バロック音楽」にはどのような特徴がありますか？

**上羽**—音楽でも建築や美術と文化の方向は連動しているので、装飾の多いバロックの絵画などと一緒で、装飾音が多かったりしますね。前の時代のルネサンスに比べて人の感情に訴えるような表現が特徴だと思います。

**新田**—装飾音というのは1つの音を飾るために別の音を付けることなのですが、バロック時代の楽譜には指示(装飾音)が書いていないこともあり、当時は即興で演奏していたようです。私達現代人も自分で装飾音を考えて演奏しています。その部分は奏者によって仕上がりが変わりますね。

**上羽**—新田さんがおっしゃった通り、楽譜に書いてある事が少ないので、演奏者が装飾音を考えて演奏することもあります。その

時は「当時の人ならどう演奏するか」ということをポイントとして押さえておかなければなりません。時代背景や当時のその国の流行、また、同じ作曲家の同時期の楽曲を調べたり、17世紀・18世紀の人が書き残したその作品についてのアドバイスや文献なども参考にしながら、即興部分(装飾音)を作っていきます。

**新田**—時代や考え方もよりますが、例えばバロック後期の声楽曲の作品で言うと、音楽的要素を強く尊重する傾向があります。ヘンデルの楽曲だと、装飾音は派手ではないですが、多少技巧的にして音楽を際立たせたりしています。そのような音楽面での表現方法がある一方で、初期のモンテヴェルディの装飾音は、技巧的にせずに、同音が続く簡単な音列のものが多いです。質素な装飾法が使われる理由として、言葉を解りやすくするためです。たくさんの装飾音を入れてしまうと、メロディーに乗せている「言葉」がブレしてしまうんです。時々、このような初期の頃の技法を後期にも反映させる人もいますね。考え方の違いだと思っています。

**中山**—初期バロックは言葉を中心に、大事に歌うということが大切にされてきました。装飾音もそうですが、伴奏部分もとても質素にできていて、言葉をメインに際立たせる工夫が散りばめられています。後期になると音楽全体を煌びやかにしていく傾向に変わります。10月の公演でも初期楽曲、後期の楽曲を聴き比べることができますので、楽しめるのではないのでしょうか。



↑チェンバロを演奏する上羽さん

—バロック音楽を初めて聴く方にとっては、他にはどのような楽しみ方がありますか？

**上羽**—楽器の音色を聴くことだと思います。今回私が使用するのは「チェンバロ」という楽器で、ピアノの前身と言われることがあります。ピアノと似ていますが、やや小型の鍵盤楽器で、ピアノの打弦とは違い、弦を爪で弾いて音を出します。ギターのような物が鍵盤に付いていて、それが弦を弾いて音を出します。チェンバロのような古楽器は現代の楽器と比べて繊細で、違った表情を見せてくれます。

**中山**—今のピアノは鍵盤が88鍵あり音域も広く、強弱も付けられるので音量の幅も広く、さらにペダルによって響きも付けられますが、チェンバロは弾いたらすぐさま音が減衰してしまいます。そういうところもはかない感じがして、美しく、聴きどころだと思います。

**上羽**—一般にチェンバロという楽器を思い浮べると、鍵盤の色がピアノとは反対の白黒で、鍵盤が2段になっているものだと思いますが、私の楽器は、鍵盤は1段で、ピアノの白鍵の部分が茶色

です。これは17世紀から18世紀のイタリアで一般的だったものです。チェンバロにも種類があり、時代や国によっても見た目の違いがありますね。おおまかですが、鍵盤数は今のピアノの半分ほどで、4～5オクターブしかありません。

楽器に合わせて音楽が作られていたのか、それとも音楽に合わせて楽器が作られてきたのかは分かりませんが、やはり17世紀のイタリアの音楽を演奏するならば、その時代にその国で使われていた楽器で演奏することが、一番その音楽に合った表現方法だと考えています。

—声楽家のおふたりはチェンバロの伴奏で歌われる時と、ピアノ伴奏の時とで違いはありますか？

**新田**—後期のヘンデルやJ.S.バッハなどをコンサートで歌う際には伴奏がピアノであることが多いですが、その時に僕が大事にしているのはピッチですね。ピアノだと一般的に440～442Hzの音程なのですが、バロックピッチはそれより約半音低い415Hzがしっくりきます。僕はヘンデルやJ.S.バッハを歌う時は415Hzが心地良く感じます。やっぱりその当時の音楽を演奏する際はピアノよりもチェンバロの伴奏が歌いやすいと感じますね。

**中山**—今回の公演も415Hzでやろうと思っています。オーケストラなどはアンサンブルの際に音程を合わせる時に基準とする音が「ラ」の音なのですが、これが440Hzや442Hzと言われています。国や地方によって違ったようですが、バロック時代はそれよりも少し低い415Hzで演奏されていました。ピアノの音程よりも半音低い音なので、普段ピアノを聴いている方が聴くと、お気づきになるかもしれません。当時鳴っていた音がこの日に聴けるということです！



↑リコーダー、ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェンバロとのアンサンブルで歌う中山さん、チェンバロは上羽さん。

—新田さんのカウンターテナーという声種について教えてください。

**新田**—よくいわれるテノールやバリトンの男性の声は「胸声」と言って胸から声を出すのですが、カウンターテナーはそれに加えて、ファルセットと呼ばれる「頭声」と言う、いわゆる裏声を多めに使った声のことです。普通の声楽家も当然ファルセットを使うことはできるけれど、音圧は少し薄くなってしまおうと思います。そこを何年も訓練し、ファルセットと「胸声」を混ぜていくという作業を極めていくというのが「カウンターテナー」です。

生まれつきのホルモンのバランスや、地声が高い方もいらっしゃいますが、その方々は元から音圧のある、強い声をしっかり出すことができます。一般的には「ソプラニスタ」といわれる声種になりますね。ソプラノ、メゾ、アルト、テノール、バリトンの中にもいろんな声質



↑イタリアでの演奏会の様子。(新田さん)

があるのと同じように、カウンターテナーにも十人十色でさまざまな声質があります。例えば、僕は音域でいえば、メゾソプラノ寄り。高い音域を歌うイメージがあるかと思いますが、中間音も使っていくカウンターテナーです。中には低音を出せる方もいますし、逆にソプラニスタは、女性のソプラノが歌うモーツァルトの「夜の女王のアリア」のような声が出る方もいらっしゃいます。カウンターテナーはまだまだ発展途上の声種だと思います。

—中山さんは「ソプラノ」として、バロック音楽を演奏するときに意識していることはありますか？

**中山**—基本的には一般的なソプラノのイメージのままです。ただ聴いていただければと思います。何か違いがあるとしたら、私は古典派以降のオペラを歌う時には自然にビブラートをかけて歌おうと思いますが、バロックの曲を歌う時は、ノンビブラートで歌っています。古楽器は現代の楽器と比べると音が繊細なため、音色の調和に意識を向けています。歌も楽器の一部という感覚です。ビブラートはその当時「装飾」のひとつという扱いでしたので、ここぞという特別な時にとっておいています。

—戸塚のお客様に向けてメッセージをお願いします。

**新田**—カウンターテナーという声種は、認知されてはいても、まだ活動の範囲としては限定的な気がしているので、その可能性を広めることがバロック音楽の普及にも直結していると思っています。

僕の活動を通してカウンターテナーについてもっと知ってもらいながら、バロック音楽についても好きになっていってほしいと考えています。戸塚に限らず、神奈川県で演奏するのが僕自身初めてなので、その最初のコンサートがこのような「バロック音楽について知る」という内容で、嬉しく思います。10月の公演ではバロック音楽の素晴らしさや、こんな曲があるんだ、という発見、また、バロック音楽がどういうものか、カウンターテナーがどういうものか、などなど、多方面から楽しんでいただければと思います。私もとても楽しみにしています。

**上羽**—バロック音楽というと、後期にあたるJ.S.バッハやヴィヴァルディの時代(18世紀)が話題の中心になりがちですが、私は17世紀の、特にイタリアの音楽が非常に魅力的だと思っているので、当日はこのチェンバロという楽器と共に、その魅力を伝えられたらと思います。

また、横浜は私自身足を運ぶ機会も多く、とてもなじみ深い街です。音楽に限らず文化芸術も盛んな街だと思いますので、そこで演奏できるのを楽しみにしています。

**中山**—バロック音楽になじみがない方が多いかと思いますが、今聴く音楽の元を遡るとバロックに辿り着きますので、なんでも物事の「始まり」を知ることは楽しいと思います。さらに、バロック時代の音楽は政治や宗教との関わりから生まれた音楽も多く、歴史や美術が好きの方も、音楽と結びつけながら考えると、それぞれに共通点があるはずですので興味深いと思います。バロック時代の楽器は、時代と共に改良されてきた楽器よりも構造上音量が小さいものが多いです。当時は教会で演奏される機会がほとんどでしたので、良く響く環境で、音量が小さくてもよく聴こえていたと思います。今回さくらプラザではリハーサル室というサロンの空間でのコンサートですので、音量が小さいバロック時代の楽器の音色、音楽を聴くのに適していると思います。バロック音楽中心のコンサートを横浜で聴けるのも珍しい機会かと思いますが、演奏者との距離もホールとは違いますから、間近で聴けるのもぜひお楽しみに！

取材・構成／近藤 喬之・山上 由布子

横浜音楽祭2022共催  
**気軽にバロック！！～トークと演奏を楽しむコンサート～**  
 【第1回】入門編 知ると楽しいバロック音楽 一後期バロックの名曲たちー  
 【第2回】上級編 バロック初期～後期まで 一名曲の時代を遡ってー  
 10/19(水)①11:30開演②14:30開演  
 会場:リハーサル室 出演:中山美紀(Sop)、新田壮人(C-Ten)、上羽剛史(Cemb)  
 \*詳細は裏紙をご覧ください。

完全御礼

入場券



2022年  
7月2日(土)10:30~4日(月)18:00~

さくらプラザ特待生とは

次代を担う若いアーティストたち。公募により概ね13歳から24歳までの演奏家・表現者を目指している方を認定し、さくらプラザ主催公演を無料で鑑賞することで、自身の芸術活動に活かしてもらうための事業。将来表現者として区民に還元してもらうことを期待しています。2016年から始まり、今年で7年目を迎えました。2022年4月から特待生に第3期生が新たに7名加わり、ピアノ・弦楽器・ギター・ダンスなど様々なジャンルで計14名の特待生が事業に参加しています。



↑ミーティングの感想や、特待生としてチャレンジしたいことを具体的に書いていただきました。

新しい仲間が加わってから初めての「特待生ミーティング」を開催。まずはお互いを知ってもらうことを目的とし、自己紹介を中心に、文化芸術とどのように関わっているかを語り合いました。具体的には、「専門に学んでいること以外での趣味は何か?」「最近訪れた芸術文化施設はどこか?」また、「尊敬している人はだれか?」そして、「今年の目標」や「特待生」という活動を通してどうなりたいか?」などを自由にお話していただきました。共通の趣味などもあり、それぞれに、親近感を持って対話をしている様子でした。また、特待生同士でのアンサンブルや、他ジャンルでのコラボもやってみよう、という声が多く、いつか特待生企画のコンサートができてしまうかも!?と夢が広がりました。

自分のことを話したり、相手に質問をしたりしていくと、自分がどのように文化芸術と向き合っているのか、今後自分はどうしていきたいのか、などがくっきりと見えてきて、「自分を知る」機会にもなったことと思います。

次回の特待生ミーティングでも芸術を通してお互いを知り、芸術に対する気持ちを高め合えるような企画を準備中!またご報告いたします♪

2022年春、さくらプラザ地域連携企画「さくらプラザ動画公開サポート」がスタートしました。この企画は、さくらプラザでの皆様の文化・芸術活動をインターネットを通じて、気軽に、多くの方に向けて発信するためのものです。動画の撮影からYouTubeへの公開まではさくらプラザスタッフが代行しますので、撮影機材やパソコンが苦手な方でもお気軽にご利用いただけます。本誌発行時点で10団体以上の活動を公開していますのでぜひご覧ください!今回は当企画で参加の2つの団体様にコメントをいただきましたのでご紹介いたします。



↑「YouTubeさくらプラザ動画公開サポート」にて紹介している再生リストはこちらからご覧いただけます。

利用者様の声

戸塚区演奏家協会様

動画タイトル:  
「戸塚ゆかりの音楽家による『戸塚区演奏家協会』のコンサート告知」

当協会について、また、2022年5月に開催した自主企画コンサート「とつかのん」の紹介・宣伝のため、会員に撮影参加の声を掛けるところ、すぐに2組が手を挙げてくれました。さくらプラザさんには、こちらの撮影内容の趣旨や内容をご理解いただきながらの撮影をしていただき、会員も楽しんで撮影に臨めたため、和気あいあいとスムーズに進みました。この動画の効果もあってか、コンサートには多くのお客様に越えただけでした。



認定NPO法人あっちこっち様

動画タイトル:  
「おやこでたのしむクラシック〜0歳からのアート体験〜 告知コメント映像」

YouTube用の動画撮影でさくらプラザさんを使わせていただいた際、撮影の合間にPR動画も撮らせていただきました。スタッフの皆さんがとても親切で、数テイク撮り直しましたが最後まで快く対応してくださいました。私たちの活動を全力でバックアップしてくださり嬉しかったです。



さくらプラザ 特待生による  
コンサート・レビュー

今回鑑賞した公演はこちら!

2022/4/22 (金)19:00開演

El Cielo 2020×アストル・ピアソラ

—魂を揺さぶるその情熱を、圧倒的破壊力のあるサウンドで—



独特の世界感を放つ<El Cielo2020>の演奏にそれぞれ得たものがあつたようです。生の演奏の持つ力を肌で感じ、経験することで、自らの表現の幅を広げていってほしいです。

こぼやし もえか  
小林 萌香さん(19歳)

久しぶりに、クラシック以外のコンサートに行きました。

ピアソラの曲は、リベルタンゴしか聴いたことがなかったので、今回のEl Cielo 2020のコンサートではピアソラについて知るためにもとても楽しみにしていました。

曲の説明に、リズムなどについて解説が書いてあったので、聴きながら3・3・2のリズムなどを数えて聴いてみました。曲の途中や、曲が終わる時に全楽器の音が一瞬なくなる「余韻」に鳥肌が立ちました。クラシック音楽よりも曲のテンポが変動することが多かったり、曲に題名が付いていることで、より曲に惹き込まれました。演奏者の皆さんがとても楽しそうだったので、私もリズムカルな曲に乗って楽しく聴くことができました。また、さくらプラザ・ホールでコンサートをしていただきたいです!

ひが このあ  
比嘉 心媛さん(15歳)

今回、この公演の鑑賞を希望した理由は、幅広い舞台パフォーマンスを知るためでした。私はクラシックバレエとピアノを習っていて、ピアソラという作曲家は知っていたのですが、ヴァイオリン、チェロ、コントラバスの演奏を生で聴いたことがありませんでした。なので、この公演でたくさんの学びがありました。それは、「弦をはじいて音を出す」ということです。初めての弦楽器の公演だったので、とても衝撃を受けました。途中、バスののはじくところが激しくなると、「ガサガサッ」というような弦をはじくときに音で本来の弦を弾いて出す音があまり聴こえないこともありましたが、静かでゆっくりの部分になると、はじいて出る低音が演奏に深みを出しているのだなと気づきました。また、4つの楽器が演奏しているのにも関わらず、それを感じさせないまとまった演奏が素敵でした。このような公演を鑑賞することができて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

あなたもご自身の活動を発信してみませんか?

公開までの流れ

- ①お申込み → ②日程調整 → ③動画撮影 → ④内容確認 → ⑤YouTube公開
- ※③~⑤はさくらプラザスタッフがいきます。

お申込み方法

「さくらプラザ動画公開サポート 申込書」に必要事項をご記入の上、申込書をご提出ください。費用は無料です。お気軽にお申込みください。

詳しくは下記のQRコードよりホームページをご覧ください。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェブ様の登録商標です。



「さくらプラザ動画公開サポート」  
← ホームページはこちらから  
(申込書もこちらからダウンロードいただけます)

※公開するYouTubeのアカウントはさくらプラザのチャンネルです。当アカウントは収益を目的としていません。動画の視聴の際に広告が表示されますが、YouTubeの仕様です。  
※芸術文化以外の活動、宗教的又は政治的宣伝意図を有する活動はお申込みいただけません。



撮影中のさくらプラザスタッフ

私たちが皆様の活動を撮影します! /



チャンネル登録をお願いします!!

その他にも、さくらプラザYouTubeチャンネルでは文化芸術に関する様々なコンテンツを公開しています。ぜひ、ご覧ください!

←さくらプラザYouTubeチャンネルへ

子ども × 文化芸術 × 私たちの暮らす街  
**WA! 育つ! 育てる!**  
 小田直弥

【ふむふむ、WA!】と驚くような、【輪】になって繋がっていくような……、文化芸術と街の視点で【子育て】を考える連載。  
 街・家庭で育つ子どもたちを大人はどう育てていくか。

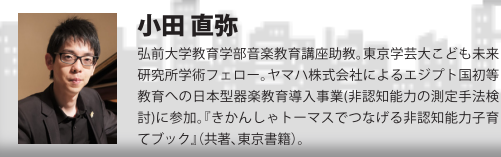
**Vol.3 お腹にいる赤ちゃんとのコンサート**

マタニティ・コンサートをご存じですか。お腹にいる赤ちゃんとお母さん、そのご家族の方に音楽を楽しんでもらうことを目的としたコンサートです。全国各地、クラシック音楽を中心としたプログラムによって実施されることが多いようで、内容はピアノや声楽、楽器のソロといった小編成から、オーケストラによるものまで様々です。

お腹の中にいる赤ちゃんは、週齢20週前後には聴覚器官が音刺激に対して機能するようになり、週齢30週頃には音刺激と脳との刺激伝達機能がほぼ成熟すると言われています。生まれる前から音との触れ合いは始まっており、そこで経験したことを生まれた後も覚えていくということが研究でも紹介されています。胎児は羊水や腹壁等の影響から、私たちが音を聴くのと同一ような音の聴こえ方はしませんが、それでも、耳にする頻度が高いお母さんの声と、それ以外の女性の声に対する反応は、生後すぐに違いがみ

られるという報告もあります。マタニティ・コンサートは、クラシック音楽が好きなた方にとって、妊娠中のストレスや不安軽減の機会にもなります。一方で、不安傾向の高い人のパフォーマンス向上のためにはクラシック音楽よりもヘヴィメタルの方が有効なのではないかと考える研究者もいます。かつて言われたモーツァルト効果のように、クラシック音楽を奏するのではなく、ちよつとした癒しを求めてマタニティ・コンサートに出かけ、お腹にいる赤ちゃんと一緒に音を楽しみ、音の思い出を重ねていく気軽さが良いのかもかもしれません。

行政やNPO団体・公共ホール等が主催するマタニティ・コンサートは、地元の音楽家の演奏機会を創出し、妊婦さんやお腹にいる赤ちゃんに音楽を通して貢献していること、そうした営みが音楽人材の育成・子育てしやすい街づくりにつながる点で良い取り組みだと思えます。産婦人科との連携で妊婦さんに情報を届けやすくすること、会場はアクセスしやすく託児サービスがあるとなお良し、開催頻度の高さや入場料も無料、もしくはワンコインが気軽さを誘います。音楽を活用した街づくりとしてこうした取り組みが広がることを願うとともに、マタニティ・コンサートの今後の発展について、通常の演奏会や子どものための演奏会とも異なる、マタニティ・コンサートのためのプログラムが開発・実践されることを期待しています。



**小田 直弥**  
 弘前大学教育学部音楽教育講座助教。東京学芸大こども未来研究所学術フェロー。ヤマハ株式会社によるエジプト国初等教育への日本型器楽教育導入事業(非認知能力の測定手法検討)に参加。『きかんしゃトーマスでつなげる非認知能力子育てブック』(共著、東京書籍)。

誰も真似てはならぬ!?!  
**秘 さくらプラザ コンサート企画**  
 案3

静岡県島田市出身。東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。リスト音楽院修士課程首席修了。東京音楽大学大学院博士後期課程修了。ドホナーニ二研究者。流木日本人唯一のドホナーニ二研究者。現在、ピアノ、アンサンブル、指揮、研究および執筆と様々な活動を続ける傍ら、後進の指導にも当たっている。奈良教育大学准教授。

ピアニストで指揮者の鈴木啓資さんがさくらプラザで開催するならこんな企画がいい!とアイデアを綴っていく連載コーナー。いつか実現できる日がくるかも!?!アーティストの頭の中を覗いてみましょう~!

早いもので本連載も第3回目。これまで「クラシック音楽」を中心に考えてきたが、今回は少し考え方を変えてみよう。このコンサート案では、「現代音楽」そして「異なるジャンルの融合」がキーワードとなる。

皆さんがイメージされる「クラシック音楽」とはどんなものだろうか。本連載第2回で触れたようなバッハの楽曲をイメージする方もいれば、ショパンやリストなどを思い浮かべる方もいるであろう。いずれにせよ、過去に作られた音楽をイメージする方がほとんどではないだろうか。しかしながら、どのような曲であっても作られた当時は「現代音楽」であり、初演をきっかけに様々な評価をされ、クラシック音楽史(西洋音楽史)に刻まれていく。このように考えると、現代の音楽もクラシック音楽の歴史を担う重要なものになることは間違いないだろう。

前置きが長くなったが、今回のコンサート案は、このコンサートのために書いてもらった曲を演奏するという内容である。こちらから依頼して曲を書いてもらい、その曲の世界初演を担当する、いわゆる「委嘱」というものだ。今回は「異なるジャンルの融合」という要素を取り入れてもらうように作曲家の方にはお願いしたい。

異なるジャンルと一言で言っても様々な可能性がある。例えば、ハンガリーの作曲家であるバルトーク・ベーラやコダーイ・ゾルターンらは、伝統的なクラシック音楽にハンガリーの民俗音楽の要素を取り入れた。これは「異なるジャンル」を融合させたと言えるであろう。また、近年亡くなったニコライ・カプースチンは、クラシック音楽にジャズを取り入れた作風で知られている。

さて、今回の案で委嘱するのは、「洋楽器」と「和楽器」を融合させた、「和太鼓協奏曲」である。「和太鼓協奏曲」という名前からわかる通り、和太鼓のソロが主役になるが、そのほかのパートにも様々な和楽器が入ってくると、より面白いのではないと思う。もちろん、どの程度和楽器を入れるのかという点は作曲家にお任せする内容であるが、楽器の選択については作曲家の個性が出る1つの要素であろう。

この曲は和太鼓、すなわち日本の打楽器を主役として演奏する曲であるので、大迫力の演奏が期待できそうだ。体の芯に響く和太鼓とオーケストラのサウンドを、良い響きをもつさくらプラザのホールで聴いてみたい。その一方、指揮者として世界初演に立ち会いたいと思う自分もいる。欲張りな自分にとっては悩ましいところである。

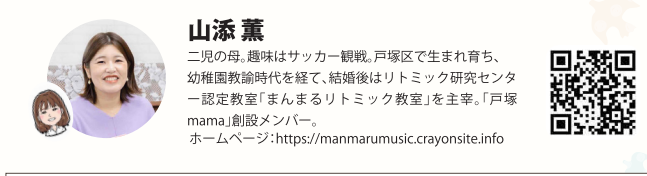
戸塚でたのしむミュージック♪  
**Vol.3 『思い出の曲はありますか?』**

今回は、私が音楽活動を通じて感じていることをお話しします。

リトミック教室を開講する前、私はサークル活動として近所のお友だちに協力してもらいながら活動していました。戸塚区にはママたちが協力して運営する育児サークルが沢山あります。私自身もサークルに所属して梨狩りや消防署探検、紙芝居、ミニ運動会ではみんなで公園に行っかけてっこをするなど、子どもとお出かけるだけではできない貴重な体験ができました。子どもがサークルを卒業してからは、出張リトミックとして色々なサークルを訪問しました。出張リトミックに参加する子どもたちは「初めまして」の顔ぶれです。緊張していたり、ワクワクしていたり様々な表情の子どもたち。音楽で歩いて、止まってを繰り返すうちに段々と心が溶けていつの間にか一体となって楽しんでいます。そう、楽しいことに予習はいらないのです。自由に表現する楽しさ、それが音楽で一つになった時、心地が良いと感じるのに時間がかからないのですね。皆さんの地域のサークルもチェックしてみてください。音楽にみんなが触れ合う時の子どもの表情は格別ですよ。

戸塚では様々な場所で音楽に触れ合えるのです。音楽は「聴覚」だけでなく、景色の「視覚」、そこにいるお母さんの匂いの「嗅覚」、触れ合っている「触覚」、旅行先で食べた味の「味覚」なども、音楽があるだけで思い出すことありませんか? 五感で感じた音楽は案外大人になっても忘れないものです。

今回このコラムを担当することになった時、子どもたちが音楽で幸せになれるような活動場所が増えてほしいという想いがありましたが、それが一つ形となりました。9月29日(木)南戸塚保育園でリトミックを開催します。地域の方とみんなが子育てをする、そんな環境もこれからもっと増えて欲しいです。まずはその第一歩となりますように、音を聴く・そして感じて動く楽しさを体験していただきたいと思えます。触れ合うことが制限された世の中でも音を感じて体を動かすことで、心を揺さぶり、感情を出すことの喜びを感じられると思えます。「こんなに楽しいんだ!」と親子で驚く、そんな時間を体験しに来てくださいね。



**山添 薫**  
 二児の母。趣味はサッカー観戦。戸塚区で生まれ育ち、幼稚園教諭時代を経て、結婚後はリトミック研究センター一認定教室「まんまるリトミック教室」を主宰。「戸塚mama」創設メンバー。ホームページ: <https://manmarumusic.crayonsite.info>

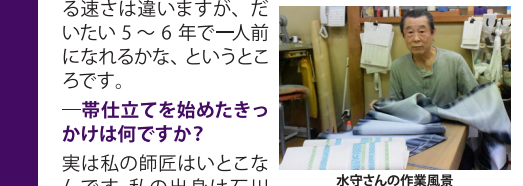
さくらプラザアウトリーチ  
**みんなでなかよく親子リトミック♪**  
**9/29(木)** 1歳児向け…10:00~10:30/2歳児向け…11:10~11:40  
 講師:山添薫(リトミック講師) 会場:南戸塚保育園 3Fホール  
 参加費:無料(抽選制) 定員:各回15組(1組:大人1名、子ども1名)  
 抽選申込:南戸塚地域ケアプラザ…TEL.045-865-5960(受付時間9:00~17:00)  
 \*申込は9月11日(日)17:00まで。その他の詳細はこちらをご覧ください→

人は皆 背中語る…  
**見返戸塚人**  
 ミカエリトツカジン

戸塚の魅力あふれる方々をご紹介します。コーナーです。

**一水守さんのお仕事内容や現在の活動内容を教えてください。**  
 帯の仕立て屋として「帯」と名の付くものはすべて取り扱います。決まったお得意様から個人のお客まで注文を受け、ご希望の状態に帯を仕立てて納めています。また、横浜マスター(※1)の活動を行っており、学校に行き体験教室などもしています。手作業の技術を広めていくのも横浜マスターの活動のひとつなんです。もうひとつはこのような技術を人に教えていくという人材育成ですね。習いたいという人は皆さん受け入れます。弟子になりたいと言われれば教えます。人によって習得する速さは違いますが、だいたい5~6年で一人前になれるかな、というところで。

**一带仕立てを始めたきっかけは何ですか?**  
 実は私の師匠はいとこなんです。私の出身は石川県なんですけど、まだ就職をせず石川にいる時に、たまたま列車の発発まで時間が余っているということで、いとこが家へ立ち寄ったんです。いとこは東京で帯の仕立て屋をやっていたものだから「じゃあ、やってみれば?」って言われてそのまま現在に至りました(笑)。和裁は姉



水守さんの作業風景

其之五十四

顔見世

有限会社 帯康 代表取締役 横浜マスター(※1)/現代の名工(※2) みずもり こうじ  
**帯仕立て職人 水守 康治さん**  
 一人ひとりのお客様を大切に、見えないところも手を抜かず心を込めて帯を仕立てています。

一仕事をやる上で大事にしていただくことを教えてください。  
 お客様と信頼関係を結ぶことが大切だと考えています。やはり相手があることなので相手に合わせることで、ごまかさないうこと、ずるをしないこと……必ず意識してやっています。例えば、「この辺は見えないからちょっと手を抜いてもいいや」ということは絶対にしません。自信を持ってお渡しできる帯を仕立てていくことが信頼関係を築く上で大切で、そういう気持ちでやってきましたから、そ今に繋がっていると思います。

一今後の夢や目標、やりたいことをお聞かせください。  
 お客様と一対一での仕事を増やしていきたいです。最近は個人のお客様から「マスターで見た」「新聞に載っていた」などという嬉しい方もいます。帯仕立てだけでなく着付けのアドバイスもしますし、和裁なら何でも相談をお受けします。お客様に直接説明をし、要望を聞きながら、帯仕立てをやっていきたいですね。その方が納得のいく良いものができ上がります。

おひこう  
**有限会社 帯康**  
 横浜市戸塚区深谷町 92-2  
 TEL: 045-851-7745  
 営業時間: 9:00 ~ 16:30  
 定休日 日曜日

次号の戸塚人は・・・?

(※1) マスター (Meister) とはドイツ語で「親方・師匠」の意味。英語の master に当たる。横浜市では、平成8年度から、市民の生活・文化に寄与する優れた技能職者を「横浜マスター」に選定しています。「横浜マスター」は、横浜市の技能職者の代表として、技能職の後進育成及び貴重な技能の継承を行っています。  
 (※2) 「現代の名工」とは、技能者の地位と技能水準の向上を図るために設けられた、卓越した技能者表彰制度に基づき、厚生労働大臣によって表彰された卓越した技能者(卓越技能者)の通称です。

# さくらプラザコンサートスケジュール

チケットはお電話(045-866-2501)でご予約いただけます。(一部除外あり)  
 詳細はチラシをご覧ください。出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。  
 ※学生券をお買い求めの際は学生証を必ずご提示ください。

さくらプラザ・ホールは右記の日程で天井改修工事を行っています。工事期間：2022年6月1日(水)～2023年2月3日(金)予定

名曲サロンシリーズ Vol.34  
**高橋 龍之介 サクソフォンコンサート**  
 ～サクソフォンとピアノが織りなす名曲～

出演：高橋 龍之介(サクソフォン)、柳川 瑞季(ピアノ)

会場：リハーサル室  
 11/14(月)  
 ①11:30/②14:30 各回休憩なし・約45分  
 全席自由 各回 1,000円




© Ayane Shindo

らららん♪ドレミシリーズ Vol.18  
**0歳からのコンサートデビュー♪**  
 ～打楽器で秋のズンチャツチャ♪～

出演：望月 かおり(打楽器)、中丸 ひろひ(ピアノ)

会場：リハーサル室  
 9/8(木)  
 ①10:30/②11:45 各回休憩なし・約30分  
 全席自由 各回 500円 ※0歳から有料。




**チケット** さくらプラザ先行電話予約  
 9/16(金)14:00～  
 \*9/17(土)9:00-窓口引取り開始

**まもなく予約開始**

横浜音楽祭2022共催  
**気軽にバロック!! ～トークと演奏を楽しむコンサート～**

出演：中山 美紀(ソプラノ)、新田 壮人(カウンターテナー)、上羽 剛史(チェンバロ)

会場：リハーサル室







YOKOHAMA  
OTOMATSURI

10/19(水)

第1回 11:30  
 「知ると楽しいバロック音楽 ―後期バロックの名曲たち―」

第2回 14:30  
 「バロック初期～後期まで ―名曲の時代を追って―」

各回休憩なし・約60分、入替制  
 全席自由 通し券 2,800円  
 各回 横浜市民 1,500円/一般 1,800円/学生 500円

共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会

完売御礼

共催 コンセール・アミティエ  
**第47回 音楽サロン plus**  
 ～心で聴き、心で歌う～

共催 完売御礼

吉府 充希子(ソプラノ)、尾形 一樹(サクソ)、高木 直樹(ピアノ)

会場：リハーサル室  
 9/27(火) ①10:45/②14:15  
 全席自由 各回 1,000円

\*さくらプラザでは窓口販売のみ取扱い





©山口 直也  
(Studio:Divi)

共催 戸塚区演奏家協会による  
**ホット&ハートフル サロンコンサート**  
 ～フィギュアスケートの音楽～

共催 好評発売中

戸塚区演奏家協会メンバー(ピアノ)連弾、フルート、声楽)

会場：リハーサル室  
 10/30(日)14:00開演  
 全席自由 1,500円

\*さくらプラザでは窓口販売のみ取扱い



## 春の芸術祭

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民…アートに**溺れる** 3日間

### 2023年3月開催決定

※イベントの詳細は2023年1月初旬公開予定。

マルシェ出店



ギャラリー展示



ホール出演



戸塚区内の隠れたアートをさくらプラザスタッフが動画で紹介



絶賛公開中!



～発見! とつかのアートたち!～

視聴はこちらから  
 ※通信料が発生します。



**編集後記**

夏も終わり、芸術の秋のスタートということでご紹介させていただきます。  
 “あーとつか”というさくらプラザの動画をご覧いただいたことはありますか?  
 この編集後記の上に紹介を掲載しているのですが、こちらはさくらプラザの  
 スタッフが戸塚区内にある美術品・アート作品を動画で紹介しているコーナー  
 です。皆様の周りにも隠れたアートが眠っていませんか!?  
 お心当たりがある方はぜひさくらプラザまでご一報ください!! (近藤)

戸塚区民文化センター さくらプラザ

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

event@totsuka.hall-info.jp



<https://totsuka.hall-info.jp>

さくらプラザ 検索



※通信料が発生します。  
 ※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって公演内容の変更、  
 または中止になる場合がございます。



Vol.56  
 9・10月号

2022.9.1発行